

平成30年度 自己評価計画書に対する中間評価

							石川県立志賀高等学校	
重点目標	具体的取組	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	中間評価	分析と改善	
1 教職員多忙改善 業務分担の適 性化等により、 時間外勤務の縮 減を図る。	① ・教職員の働き方 を見直し、より効果的 な業務分担と協力体 制を築く。	本校教職員の時間外勤務 時間は県の平均よりも多 く、さらに一部の教職員 は多くの業務を負担して いる。業務を個人に任せ ず複数人で分担して行う ような協力体制が望まれ る。	【成果指標】 業務分担を図り時間外勤 務の縮減を図る。	効果的な業務分担と協力体制で時間外勤務の縮減 が図られたと答える教職員の割合が A：70%以上 である。 B：60%～70%未満である。 C：50%～60%未満である。 D：50%未満である。	C以下は具 体的な改善 策を検討す る。	C 57%	今年度初めての取組で 各個人の意識的な取組に 依存している面もあるが 昨年度の時間外勤務（4月 ～7月）と比較すると平均 10時間縮減されている。 今後、多忙化改善につな がる効果的な業務分担の 具体策を検討したい。	
2 学力の向上 魅力ある教材 および指導法の 工夫により、学 ぶ意欲を高め学 力の向上を図 る。	① ・授業の工夫、改善 のためICTの効果的 な活用に取り組み、 生徒の学習意欲を高 める。	工夫を凝らした授業実践 （ICTを活用等）により 学習意欲が高まったと答 える生徒の割合が63%だ った。	【努力指標】 基礎学力の向上を図るた め、工夫を凝らした授業 実践（ICTの活用等）に より、生徒の学習意欲を 喚起する。	「ICT機器の活用等、工夫を凝らした授業によ って、学習意欲が高まった。」と答える生徒の割 合が A：70%以上 である。 B：60%～70%未満である。 C：50%～60%未満である。 D：50%未満である。	C以下は具 体的な改善 策を検討す る。	B 66%	iPad等を利用するなど の工夫も見られ、昨年度 末より3ポイント上昇し た。2年次生の評価が入学 時よりも下がってきてい るので、指導のさらなる 工夫が必要である。	
	② ・各学年の実情に応 じた家庭学習課題を 教科毎に出題する。 ・生徒指導課、進路 指導課とさらに連携 し、学習時間の確保 に努める。	昨年の学習時間調査で は、家庭学習時間の平均 が1時間以上であった生 徒の割合は57%であっ た。	【成果指標】 教育課程の見直し、適切 な課題の出題により家庭 学習を継続的に取り組 み、学習時間が増加す る。	家庭学習時間が、1日平均1時間以上と答える生 徒の割合が A：80%以上である。 B：60%～80%未満である。 C：40%～60%未満である。 D：40%未満である。	C以下は具 体的な改善 策を検討す る。	B 64%	昨年度末より7ポイント 上昇してB評価となっ た。課題学習への取組が 定着してきている。学習 意欲が低い生徒への対策 を強化したい。	
3 進路の実現 進学意欲の高 揚やキャリア教 育を充実すると ともに、個に応 じた指導を充実 させ進路実現を 図る。	① ・保護者や関係機関 と連携を深め、個に 応じた進路指導の充 実を図る。	クラスの中でも基礎力や 理解力の違いから学力差 が大きい。 保護者に対して進路情報 を、適切な時期に、適切 な内容で提供する必要が ある。	【満足度指標】 保護者に、進路について 必要な情報が必要な時期 に提供されている。	学校が提供した個別の進路情報に対して「満足で きた」と答える保護者が A：50%以上である。 B：40%～50%未満である。 C：30%～40%未満である。 D：30%未満である。	C以下は具 体的な改善 策を検討す る	A 75%	今年度初めての設けた 質問項目であり、個々の 生徒がどのような情報を 必要としているかを精査 しつつ対応していかなけ ればならない。	
	② ・進路説明会や社会 人講座、各種マナー 講座、企業見学会に より、就職に対する 意欲や必要な態度を 身につける。	年度当初の進路志望調査 においては、自己の進路 についての意識が低く、 進路未定の生徒がいる。	【満足度指標】 「進路説明会や社会人講 座、各種マナー講座、企 業見学会等が進路決定の ための参考になった。」 と答える生徒の割合が 70%以上になる。	「進路説明会や社会人講座、 企業見学会等が進路決定の ための参考になった」と 答える生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	C以下は具 体的な改善 策を検討す る。	A 82%	昨年度末より7ポイント 上昇してA評価となっ た。ただ、今後の進路を 考える時期にある2年次生 の評価が低いいため、対策 を考え指導の充実を図り たい。	
4 基本的生活習慣 の確立 心の教育を実 践するととも に、基本的生活 習慣の確立や規 範意識の高揚を 図る。	① ・年三回いじめアン ケートを実施すると ともに生徒全員に面 談をする。 ・目安箱を設置す る。	訴えがあった場合は即、 いじめ対策委員会を開き 協議し対応した。	【成果指標】 いじめに対し、早期発見 ・早期対応ができる。	学校はいじめに対しての取り組みをしっかりと行っ ている。 A：90%以上である。 B：70%～90%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	C以下は具 体的な改善 策を検討す る。	B 75%	第1回目のアンケート 調査ではいじめの報告は なかった。今後はさらなる 未然防止・早期発見の ため、面談の時間を十分 にとって生徒理解に努め たい。	

重点目標	具体的取組	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	中間評価	分析と改善	
	② ・携帯電話・スマートフォンを教職員が朝礼時に生徒全員から預かり終礼時に返却する。 ・保護者と連携を図り、家庭での携帯電話のマナー指導をする。 ・生徒会と連携し“スマホ”一日一時間運動や標語ポスターコンテストなどを実施する。	家庭生活で携帯電話・スマートフォン使用のマナー意識が低い生徒が少なからずいる。	【成果指標】 携帯電話を預けるとともに、マナー指導を徹底することで規範意識が向上する。	「家庭において、携帯電話・スマートフォン使用のルールが守られている。」と答える保護者の割合が A：60%以上である。 B：50%～60%未満である C：40%～50%未満である。 D：40%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	B 59%	保護者への呼びかけの成果が少しずつではあるがでてきた。今後も継続し取り組んでいきたい。	
	③ ・毎朝、登校指導をする。また、生徒会と連携する。 ・教職員から挨拶し、生徒に模範を示す。 ・全校集会で挨拶の指導をする。	生徒は挨拶をしているという意識は高いが、まだ相手に十分伝わっていない面がある。	【成果指標】 登校時などの挨拶を積極的にする生徒が増加することで、コミュニケーション能力の向上を図る。	「生徒は積極的に挨拶ができています。」と答える教職員の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	D 57%	自ら積極的に挨拶できる生徒が少ないように思われる。今後は、生徒会を中心に朝の挨拶運動などを実施し、生徒の主体的な活動を増やして行きたい。	
	④ ・教室の整理整頓の状況を毎日点検したり、定期的に身のまわりを整理整頓する機会を設定することにより、整理整頓の習慣化を図る。	取組により、教室の整理整頓の状況は改善しつつあるが、自主的・主体的に掃除や整理整頓を実践する生徒はまだ少ない。	【成果指標】 自主的に、教室や身のまわりの整理整頓を実践する生徒が増加する。	「自主的に、教室や身のまわりの整理整頓を実践している。」と答える生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	B 73%	教室の整理整頓の状況は、昨年度より明らかに改善しているが、自主性は顕著には見られなかった。自主的な整理整頓の実践を目指し、保健委員からの呼びかけを増やすなど、取組を工夫したい。	
	⑤ ・教育活動のあらゆる機会をとらえて生徒理解に努め、他者を尊重し、思いやる心を育む。	昨年度「私は相手を尊重し、思いやる気持ちを持って接している。」と回答した生徒の割合は84%であった。	【満足度指標】 教職員の声掛けや生徒理解を通じた心の教育により、相手を尊重し思いやるの心で接することができる生徒が増加する。	「私は相手を尊重し、思いやる気持ちを持って接している。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80～90%未満である。 C：70～80%未満である。 D：70%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	B 85%	昨年度末より1ポイント改善しているが、今後に向けて、より一層の生徒理解と教職員の連携強化を図りたい。	
5	体力向上と健全な人間性の育成 特別活動や部活動を充実し忍耐力や協調性を養い、心身ともに健全な生徒を育成する。	① ・生徒の持久力向上を図るため、体育授業時に男子は1100m、女子は800mのタイムを毎回計測する。	体育科において23年度から継続的に取り組んでいる。昨年度は89%の生徒が記録向上できた。しかし毎年入学してくる生徒の持久力は低下している。	【成果指標】 持久力向上の評価として、天候に左右されず室内でできる20mシャトルランを実施する。4月の記録を基に、7月と11月に記録の向上者が80%以上になる。	20mシャトルランの記録が向上した生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	A 90%	毎時タイム計測を継続して取り組んできたことが高い評価につながった。今後もマラソン大会に向けて高い目標を持たせ取り組ませたい。

							石川県立志賀高等学校	
重点目標	具体的取組	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	中間評価	分析と改善	
	② ・部主将会議を各学期に開催し、部活動の状況を把握し、部活動参加率調査を実施する。	全員加入を原則としているため、部の加入率が高い。また、昨年度の部活動実施日に対する部活動参加率は87%を超えた。	【努力指標】 部活動参加率90%以上を目指す。	部活動実施日に対する参加率が A：90%以上である。 B：80%～90%未満である。 C：70%～80%未満である。 D：70%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	A 95%	昨年度末より8ポイント上昇した。ただ夏休み以降、参加率の低下も懸念されるので顧問等と協力して維持して行きたい。	
6	地域との連携 地域との連携や情報発信に努め、地域から愛され信頼される学校づくりを推進する。	① ・関係機関等と連携した教育活動も充実させ、生徒の学校生活の満足度を高め、保護者の信頼を得る。	昨年度、「本校に子どもを入学させて良かったと思う。」との問いに対して、「よくあてはまる」と答えた保護者の割合が51%であった。	【成果指標】 「本校に子どもを入学させて良かったと思う。」との問いに対して、「よくあてはまる」と答える保護者の割合が55%以上になることを目指す。	「本校に入学させて良かったと思う。」との問いに対して、「よくあてはまる」と答える保護者の割合が A：55%以上である。 B：45%～55%未満である。 C：35%～45%未満である。 D：35%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	B 53%	昨年度末と比較すると2ポイント上昇している。2・3年次生の進路実現を中心に広報活動をして行きたい。
		② ・ケーブルテレビやホームページ、「広報しか」などの定期的な情報発信により、本校の教育活動を理解してもらう。	昨年度、本校の教育活動を理解できたと回答した保護者の割合が69%であった。	【成果指標】 学校の様子を外部に積極的に発信する。	ケーブルテレビやホームページ、「広報しか」などを利用した情報発信を定期的に行うことにより、本校の教育活動が理解できたと感じる保護者の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	C 69%	昨年度末と比較すると同じである。保護者に本校ホームページをお気に入り登録していただき、閲覧回数を増やして行きたい。